

令和7年度第1回江南市環境審議会

●日時 令和7年8月22日（金） 午後2時00分～午後3時20分

●場所 江南市役所 3階 第3委員会室

●出席委員（14名）

会 長 川 口 邦 彦
委 員 加 藤 幸 治
委 員 江 上 佳 明
委 員 伊 藤 由 香
委 員 栗 本 明 美
委 員 堀 場 敏 之
委 員 谷 口 郁 子

副会長 宮 澤 恵 子
委 員 岩 井 喜 美 子
委 員 栗 本 周 保
委 員 林 本 圭 司
委 員 鈴 木 文 隆
委 員 石 井 進
委 員 小 野 陽 子

●欠席委員（1名）

委 員 富 岡 万 揮

●事務局

環 境 課 長 相 京 政 樹
環 境 課 主 任 中 島 朋 子

環境課副主幹 近 藤 祥 之

●傍聴者数 1人

●資料

資料1 第四次江南市地球温暖化対策実行計画の進捗について

資料2 ゼロカーボンシティの実現に向けた施策の進捗について

■会議経過

○事務局

みなさん、こんにちは、環境課長の相京でございます。

それでは定刻前ではございますが、皆様お揃いでございますので、これより環境審議会を始めさせていただきます。

今年度より2年間ということで、皆様には審議会委員を委嘱させていただくこととなります。委嘱期間でございますが、令和7年4月1日から令和9年3月31日までとなっております。2年間大変お世話になりますが、よろしくお願いいたします。委嘱状はお手元に先に配付をさせていただいております。皆様のお名前が載せてありますけれども、本日富岡委員がご欠席ということでお聞きをしておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、澤田市長より、ごあいさつをさせていただきますので、よろしくお願いします。

(市長あいさつ)

○事務局

本日の会議につきましては、新委員さんによる初めての会議となりますので、会長、副会長を選出するまで、私が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは初対面の方もいらっしゃると思いますので、大変恐縮ではございますが、自己紹介の方をお願いしたいと思います。時間の都合もございしますので簡潔にお願いをしたいと思います。資料の2枚目に名簿の方を準備させていただいておりますので、名簿順にお名前の方のご紹介をお願いしたいと思います。マイクを順番にまわしていただくようお願いいたします。

(各委員あいさつ)

○事務局

皆様ありがとうございました。

それでは、市長は公務の都合上、ここで退席をさせていただきます。

次に事務局の方も自己紹介をさせていただきます。

(事務局あいさつ)

続きまして、役員の選出に移らせていただきます。役員につきましては江南

市環境基本条例第 22 条第 4 項の規定により、会長・副会長は、委員の皆様の互選により選出することになっておりますので、よろしくお願いいたします。また、ご発言の際ですけれども、挙手によりマイクを通してのご発言をお願いしたいと思います。

(会長・副会長を選出)

それでは、これより議事進行は川口会長にお願いしたいと思いますが、本審議会については、最大で 1 時間半程度の予定で進めさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○会 長

江南市の環境審議会は、一般の方にも公開しております。本日は傍聴を希望の方がお見えになります。「江南市審議会等の設置及び運営に関する指針」第 7 条第 2 項の規定により、傍聴に関して必要な事項は会長が会議に諮って定めることとなっておりますので、委員の皆様にお諮りします。

会議の傍聴に関して異議のある方はいらっしゃいますか。

(異議なし)

異議なしとのことですので、傍聴人の入室を許可します。
事務局お願いします。

(傍聴人入室)

時間も限られておりますので、早速始めたいと思いますけれども、まず初めに、私の方から一言お話をしたいと思います。今年の夏は、かなりの異常気象になっておりますけれども、考えてみると僕が小さい頃は、夏って確かに暑かったですけど、お盆になればもう涼しい風が吹いて秋の虫が鳴いて、昆虫少年だった僕は、寂しい思いをいっぱいしてました。もちろんバッタやなんかは秋にいっぱい出ますけど、本当にそういう風情というか風物詩みたいなものが、だんだんなくなってきて、今自分自身も全然違和感がないんですよ。それって本当にいいことでしょうか。皆さんも小さい頃から比べたら、今の夏がとんでもない状態になってるというのは分かると思います。今マスコミが結構取りあげてますけど、海水温が 5 度以上高いとか、もう高くなれば必ず台風は大きくなります。ましてや昨日みたいに鹿児島でとんでもない熱帯低気圧が台風にな

ってそのまま上陸してしまったという。雨量も全然違いますよね。たまたま江南市はそこまでの被害を受けてないから別にとって思うだけで、本当に被害に遭われた方たちはもう毎回同じように、片付けがやっと終わったと思ったら、また大雨の被害に遭われて。この状態を僕たちが良しとしたら、環境審議会は成立しません。ぜひこのことを踏まえて、環境審議会に臨んでいただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、次第2の「第四次江南市地球温暖化対策実行計画の進捗について」事務局より説明をお願いします。

○事務局

「第四次江南市地球温暖化対策実行計画の進捗について」説明させていただきます。

お手元に資料①をご用意ください。着座にて説明させていただきます。

江南市地球温暖化対策実行計画は、市の事務や事業から排出される温室効果ガスの排出量などを把握するとともに、温室効果ガスの削減に対する取組を進めることにより、市職員が一丸となって、環境負荷の少ない循環型社会の構築に貢献することを目的としたものです。

まずは、資料の6ページをご覧ください。

こちらに、第四次江南市地球温暖化対策実行計画の目標を掲げております。この計画の目標は大きく分けて二つございまして、令和9年度の市の業務から排出される温室効果ガス排出量を、令和3年度と比較して28%削減すること、令和9年度のエネルギー使用量を令和3年度と比較して19.4%削減すること、の二つでございます。これらの二つの目標を達成するにあたりまして、計画の2年目である令和6年度の実施結果をご報告させていただきます。

8ページをお願いします。一つ目の目標である、排出量の削減目標についてです。

令和6年度のCO₂の排出量は、7,231 tで、これは令和3年度の6,056 tと比較すると、約19.4%排出量が増加したという結果になりました。

令和3年度以降に大きく排出量が増加している要因といたしましては、基準年度である令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の影響で、施設の臨時休館や利用制限が行われていたことや、toko+toko=laboが令和5年4月から供用開始したことにより、電気・燃料の使用量が増加したことが主な原因と考えられます。

活動区分別の内訳については、9ページの表をご覧ください。

構成比率、削減率からみると、電気の使用による温室効果ガス排出量が大きく影響していることが分かります。燃料の使用のなかの「ガス・ガソリン機関

（定置式）における都市ガス使用」については、図書館の移転に伴い、電気式の空調からガス空調に切り替えたことで、排出量が増加していると考えられます。

また、令和３年度はフロン類の漏えいによる排出量が無かったのに比べ、令和６年度は主に教育部局の空調設備のメンテナンスなどにより、温室効果ガス排出量が発生しました。

次に、10 ページをご覧ください。施設分類別の削減結果は、表５のとおりです。

基準年度と比較して、「供給処理施設」は、昨年環境事業センターや配水場のＬＥＤ取替工事を行ったこともあり、6.9%の削減と、一定の成果が上がっています。

しかしながら、「社会教育系施設」は、図書館の移転による施設面積・開館時間の増加などにより、排出量が大きく増加する結果となりました。また、「その他施設」については、基準年度には計上されていなかった toko+toko=labo の共用部や道路照明灯の影響で、大幅に増加しました。

次に、２つ目の目標である、エネルギー使用量の削減について、12 ページをご覧ください。

令和９年度の最終的な削減目標は 19.4%ですが、令和６年度は、燃料のうちガソリン、灯油の使用量は基準年度より減少しましたが、空調や照明設備の使用により、電気、Ａ重油、ＬＰＧ、都市ガスの使用量は増加しました。

なお、公用車につきましては、ガソリンの使用量は減少しましたが、軽油は令和６年１月に発生した能登半島地震の災害派遣のため、消防や水道の特殊車両が被災地支援に出動したため、使用量が大きく増加する結果となりました。

また、参考として、13 ページに「電力の使用による二酸化炭素排出係数」を表にしています。これは毎年環境省が公表する数値で、これをもとに二酸化炭素排出量を算出しています。

基準年度と令和６年度の排出係数を比較すると、全体的に数値が高くなっているため、結果的に排出量の増加にも影響を与えていると考えられます。

ただ、年度末時点で対象施設の半分以上が二酸化炭素フリーの電気を供給している電力会社と契約しており、今後は二酸化炭素排出量を抑えることができると考えられます。

最後に、14 ページをお願いします。今後の課題についてです。

令和６年度は、第四次江南市地球温暖化対策実行計画の２年目でしたが、総排出量は基準年度と比較して削減率は▲19.4%と、非常に厳しい結果となりました。

ただ、施設分類別に見てみると、ＬＥＤ照明への切替を行った、供給処理施設に限れば6.9%削減という結果が出ており、省エネ機器への切替が、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献していることがわかります。

今後、排出量やエネルギー使用量の削減目標を達成するためには、職員一人ひとりの行動に頼るだけではなく、施設改修などハード面での省エネ対策がますます重要になります。これからも、ＬＥＤ照明の速やかな導入や、再生可能エネルギーなどの再エネ率を考慮した施設建設や改修を検討することにより、目標の達成を目指していきます。

私からの説明は以上です。

○会 長

はい。ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、何か質問等がございますか。

○委 員

今説明を聞きまして、温暖化対策の中で、ＬＥＤ取替工事が大きく貢献するというお話がありましたが、現在ＬＥＤに切り替わっていないような施設は、どのくらいありますか。そして効果としてはどのくらいを見込んでいらっしゃるのか。

○事務局

今、交換が終わった施設というのが比較的大きな建物で、市役所の本庁舎と消防署と、それから環境事業センターと配水場ということで、あとこれから交換をしていく計画になっているのが、保育園だとか学校もですけれども、ちょっと割合の方は正確に数字が出ませんけれども、まだかなりの施設残っているという現状があるので、削減の効果が見込まれる状況ではあります。

○会 長

ありがとうございます。他に何かございますか。

○委 員

途中経過ではありますけれども、逆に悪い方向にいつてしまってるんで、ＬＥＤ化だけで、果たして本来の目標というのは達成できるのかというところちょっと不安な気もします。職員の方が努力されてるのは評価しますが、何か別の手というか方針を出さないと、目標を達成することはちょっと難しいかなと思いますので、その辺の見解をお願いします。

○事務局

はい。ご指摘いただきました通り数字は悪化しております、省エネ対策だけでは本当に限界を感じるころなんですけれども、次の議題でも少し出てくるのですが、今年度、市役所の省エネ診断というものを委託することになっておりまして、まず省エネのさらなる促進ということで、LED化は終わってますので、それ以外のところで何ができるのかっていうのを、見える化していくという取組を行っております。

省エネ診断の中に、排出量ゼロに向けての道筋を見える化するという内容も含まれてまして、最初はできることからということで省エネ、そのあとは創エネ、エネルギーを創るということ、セットでどのように取り組むと市役所自体が排出量ゼロになるかというのを見える化するところまでを今年度は進めようと思っています。

省エネのほうは比較的取り組みやすいことではあるんですが、昨今の暑さ対策でエアコンの使用時間を延長してるものですから、なかなかそこも現実的に減らせるかどうかという悩みがあります。

また、エネルギーを創る方は何があるかという、太陽光パネルか水力か風力かという、限られた選択肢の中で、本当に取組ができるのかという疑問もありますが、方向性として一ついい兆しが見えてきたと思うのが、13ページを見ていただきますと、岐阜電力という電力会社名があるんですけれども、令和6年度は排出係数ゼロなんですね。すべて再生可能エネルギーで電力を供給しているというすばらしい取組をされていまして、江南市は69施設のうち39施設を岐阜電力に切り換えましたので、今年度は低い数字が出てくるんじゃないかなと期待をしております。

こういった事業者の取組を活用して、ゼロカーボンを目指していくということで考えれば、今のガソリンとか軽油を使ってる自動車を電化して、カーボンフリーの電気を使うことによって、ゼロを目指していくというのも一つの考え方になるかと思います。

○会 長

ありがとうございます。そういう意味では企業努力なんかもしてると思いますし、夏は本当に暑いですから、自分自身ももう空調がなかったら生きていけないので、使わざるを得ません。ただ省エネをすれば、温暖化がなくなるかって言ったらそうではありませんので、もう今まで貯めたものがなくなっていないですから、それをどうするかっていうことも踏まえて、本当は考えなきゃいけないんです。特に市でできることって限られるじゃないですか。では国はどうでしょう。国はどんな対策をしているかご存じでしたら、少し

でも紹介していただけたらと思います。

○事務局

先ほど市長の挨拶の中にもあったように2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指すということを国が宣言しました。環境省をはじめとして、どのように各自治体を動かそうとしてるかということ、脱炭素先行地域というのを100地域ほど選定して、地域ごとに地域の中でカーボンニュートラルを達成していくことをまず先行的に進めて、それを横展開するというのが国の考え方になっています。積極的な自治体は手を挙げて、その先行地域に選定をされた場合は補助金を使ってカーボンゼロを目指していく、そういった取組になっているところです。

○会 長

江南市はどうですか。

○事務局

江南市は手を挙げておりません。

実際に選定された自治体の担当の方に聞いてみたんですけれども、地域性があるって、その特定の地域は住民の方にも前向きさがあるようです。理解がある地域を選定して、そこに資源を投入して、それは住民も一体となつてというようなお話だったような気がしますけど、そういった地域を選定して進めているようです。自治体として様々な施策がある中で、脱炭素を全面に出してやっていきたいということは先行して取組をされているというようなイメージを持っております。

○会 長

ありがとうございました。

岐阜電力のお話なんですけれども、一般の市民に向けてこういうふうにやっていますよというのを紹介されてるのですか。ひょっとして乗りかえる場合もあるじゃないですか。僕は初めて知りましたので、いいことはやはり率先して市がアピールしていかないといけないと思います。

○事務局

岐阜電力が排出係数ゼロになっているということを、各部署はあまり意識してないと思います。普通はイメージとしては、再生可能エネルギーだと思料が高いと思ってたのですが、そうではない現実があるとすれば、やはり

岐阜電力さんは素晴らしい取組をされていて、企業努力が進んでいるということなので、意識の高い企業や住民、自治体というのは、そういったところとタイアップしていくという進め方になるのかなと思います。

○会 長

イベントの場でアピールしていただいて、少しでもそういう方たちを取り込むのいいと思います。大変残念ながら今年は環境フェスタがないですけども、あればそういう時にアピールしていく。僕らもチャレンジしてますから、そういうときに資料をいただけたら、やらせていただきたいと思います。

他に何かありますか。

○委 員

今の岐阜電力のお話のところで申し訳ないのですが、岐阜電力が二酸化炭素排出係数ゼロということで、資料の9ページを見ますと、CO₂の排出量の構成比は電気の使用が70%という形になっておりますので、仮に全部岐阜電力に切り換えた場合、この70%が限りなくゼロに近くなるのかというところと、なぜ岐阜電力はゼロが可能なのかというところがもしお分かりになったら、教えてくださいと思います。

○事務局

排出量の考え方としては、そのまま適用できますので、トンに換算すると5,065 tが電気の分なんですけれども、すべて岐阜電力に変われば、これがゼロになるので、令和6年度の合計の7,230 tから5,000 tを引くという計算で間違いはないだろうと思います。

色々調べてみた結果、きちんと非化石証書というのが出されているようなので、環境省も証明したカーボンフリーの電気だというのが証明されています。きちんとどこかの太陽光発電だったり、水力発電、風力発電から得られた再生可能エネルギーが供給されているということで間違いはないと思います。

○会 長

11月にも環境審議会がありますので、分かったらまた教えてください。

他にご質問はありますか。それではないようですので、次に、次第3の「ゼロカーボンシティの実現に向けた施策の進捗について」説明していただきます。事務局から説明よろしいでしょうか。

○事務局

それでは、次第2の「ゼロカーボンシティの実現に向けた施策の進捗について」を着座にて説明させていただきます。それでは資料②をご覧ください。

前回の環境審議会では、ゼロカーボンの実現に関するロードマップや環境課で実施を予定している脱炭素に関する取組の説明をさせていただきました。本日の審議会では、その取組の進捗状況や結果、今後の予定について説明をさせていただきますので、よろしくお願いします。

現在、市では「デコ活推進プロジェクト」と銘打って、デコ活をアピールしていきたいと考えております。ただし、デコ活につきましては行政からの一方的な働きかけだけではなく、市民一人ひとりが進んで脱炭素に繋がる行動変容の転換に取り組んでいただくことも重要と考えており、そのためのきっかけとして行政で様々な取組を実施することで、誰にでも脱炭素行動はすぐに行える身近なものということを理解していただき、市だけでなく、市民・事業者も巻き込んでデコ活を全体的に広げていければと考えております。

具体的には、下記にありますイメージ図のように、人々が生活していくうえで移動や食べ物なども含めた様々な衣食住があるわけですが、あらゆる場面において脱炭素社会づくりに貢献する賢い選択をしていくことが重要であります。市民の皆様が賢い選択をするにあたり、行政が少しでも手助けできるような形で実施した取組や予定している取組について説明をさせていただきますので、資料の次頁をご覧ください。

まずは、以前から行っている既存の取組で、今年度も引き続き行うものになります。

始めにフードドライブですが、令和6年度は市役所と環境事業センターで3回実施し、合計で155名、1,447点の寄付がありました。次に、令和5年10月より運用を開始しているこうなんタベマルシェの実績ですが、令和7年7月末現在で574件の取引が成立しました。

いずれの取組もそのままでは無駄になってしまう食品を必要としている方に繋げることで、食品ロスの削減やごみ減量を図ることができました。

次に、ゼロカーボン推進設備設置費補助事業ですが、こちらは市内の個人住宅に対象となる省エネ設備を設置した方に、設置費の一部を補助する事業になります。令和6年度は約1,800万円の予算で実施しましたが、186件に対し18,198,000円の補助を行いました。補助対象設備の品目や件数については表のとおりとなります。

次に環境学習アドバイザーの派遣事業ですが、この事業は各種団体に様々な環境学習プログラムのアドバイザーを派遣し、市民の方に環境保全意識の高揚と活動の促進を図ることを目的として行っています。令和6年度は延べ223

人のアドバイザーを派遣し、98 件の講座が開催され、延べ 2,861 人の方が受講しました。

それでは、裏面をご覧ください。

ここからは、今年度に新たに実施した市の取組になります。

始めに省エネ家電への買換えを促進するための取組でございます。6 月 1 日より、予算額 800 万円で、住宅へ省エネのエアコンもしくは冷蔵庫に買換えをする場合に限り、購入費用の一部を補助する事業を実施しました。期間は 2 ヶ月間の予定でしたが、非常に市民からの反応が良く、約 2 週間で補助金の予算が底をつき、事業が終了となりました。実績としましては、171 世帯に対し 7,970,000 円の補助を行い、省エネ家電の購入の促進を図ることができました。

次に、脱炭素エキデン愛知でございます。

この事業自体は愛知県が今年の 4 月 28 日から実施している事業になりますが、内容としましては、「スポビー」というアプリを利用して、脱炭素行動をアプリ内でポイント化し、ポイントを貯めることで様々な特典を受けることができるものになります。ポイントを貯めることが出来る一つの取組として廃食用油回収があり、回収場所の環境事業センターのスポット登録を行い、周知を図りました。

次に、今年度に入ってから、給水スタンドを公共施設に設置する取組を実施しました。給水スタンドはマイボトル専用のスタンドになりますので、マイボトル普及によるプラスチックゴミの削減や水分補給による熱中症対策という 2 つの効果が図れることから、設置することにいたしました。7 月 24 日に事業者のウォータースタンド(株)と協定を締結しまして、その後市内の 4 つの公共施設（市役所、地域交流センター、KTX アリーナ、すいとぴあ江南）に給水スタンドを設置し、8 月 1 日から供用開始しております。

それでは、次頁をご覧ください。

ここからは、今年度に実施中もしくは検討中の取組になります。

始めに、市役所本庁舎の省エネ診断ですが、今年度は省エネ診断のための約 90 万円の予算を確保し、東邦ガスエナジーエンジニアリング(株)に省エネ診断を委託しました。こちらの取組は江南市自体も地球温暖化対策実行計画において、市全体の温室効果ガスの削減目標を定めており、これまでは計画に記載されている脱炭素になる取組を各課で行っていた状況であります。やはり専門的な知見からどのような打ち手が費用対効果の観点等からも、より有効なのか、年内に提出される省エネ診断の報告書をしっかりと精査しながら、横展開できるものは他課や市内公共施設においても実施をして、温室効果ガスの削減を市全体で図っていきたいと考えております。

次に、公共施設への EV 充電器設置でございます。こちらの取組は前年度に

も国の補助金を活用して設置に向け動いておりましたが、前年度は補助金の枠の関係で不採択となってしまうので、今年度に改めて補助金の再申請を5月に行いました。採択の結果につきましては、現在審査中ではありますが、採択されれば速やかに設置に向けて動き出し、年始には供用開始ができればと考えております。

次に、各種イベントにおける環境啓発でございます。前年度は市制70周年記念事業の、こうなん環境フェスタを開催し、環境啓発活動の大々的に行うことができました。今年度は、規模は小さくなりますが11月にHome&nicoホールで他課が行うイベントに環境啓発のブースを出展して、啓発活動ができるように考えているところでございます。その他に現在もエコチャレンジ推進協議会が主となって定期的に環境イベントを実施しておりますので、今後も引き続き環境啓発活動を行いたいと考えております。

次に、EVシェアリングでございます。こちらの取組については、現在も情報収集をしている段階で、実施するかどうかも含めて検討中であり、まだ具体的な事項については決まっていない状況でございます。

次に、Jクレジット制度の導入でございます。市民や公共施設が実施した脱炭素に関する取組によって削減された温室効果ガスの削減効果をクレジット化し、それを地球温暖化対策の一環として、有効利用するための制度になります。この制度につきましても、現在情報収集や事業者と協議をしている段階であり、実施をするかどうかも含めて検討中でございます。

最後に、ペロブスカイト太陽電池導入に向けた調査・研究でございます。前回の審議会では会長からご紹介いただいている製品になりますが、愛知県が民間事業者から提案されたペロブスカイト太陽電池の普及拡大のプロジェクトの事業化の支援をしており、県が5月に設立した「あいちペロブスカイト太陽電池推進協議会」に本市も参画し、市の公共施設（環境事業センター）をペロブスカイト太陽電池の設置場所の候補施設の1つとして手を挙げている状況です。設置費用等の問題もあるため、事業センターに設置できるかどうか分からない状況ですが、今後も協議会やワーキンググループに参加して、県が行う取組に協力していきたいと考えているところでございます。

私からの説明は以上となります。

○会 長

はい。ありがとうございました。では、何かご質問はございませんでしょうか。もしありましたら挙手にてお知らせください。

○事務局

少し補足をさせていただくと、今説明させていただいた内容というのは、ほとんど経費のかからないもので、新規予算が組みにくい中で何ができるだろうということで、色々考えて取組を進めているところなんですけれども、こういう審議会などで、こういった取組はどうだろうかというような、私たちが気づかない部分でご提案をいただけるとありがたいと思っております。

○委 員

環境課は課長さんはじめ一緒に頑張っていたと思いますけれども、やっぱり市役所全体ということになると、ちょっとそういう雰囲気を感じられないと思います。

それからもう一つ、すでに実施中なのですが、ゼロカーボンシティに向けた標語の募集というのもありますので、内容を紹介していただければと思います。

○事務局

昨年、関係各課を集めて、一度脱炭素推進会議を開催したんですけれども、本当はそれを継続するべきという思いもありながら、何となく予算のない中で皆どうしようかという雰囲気になってしまっていました。ただ、各部署で、例えば建築部門は、法律の改正があって、前へ進めなければいけないという思いになりつつあると思うので、そういったところを軸にしながら、市全体として何ができるか、もう一度議論できるような場を作っていきたいと考えております。

○委 員

4月から建築基準法が変わったことに関連した話なのですが、私が尊敬している先生で、東京大学の江守正多という方がいます。地球温暖化に関して国際的な一流学者なのですが、その江守先生が最近盛んに言ってみえるのは、「みんな声を出そうよ」ということです。「何となく感じるだけじゃだめで、それを口に出して言いましょう」ということを盛んに言われています。

確かに我々もそういうことで少しでも市民の方に理解していただこうと思って、色々説明するんですけども、どうしても我慢のところと結びついてしまうような気がしています。皆さんに言うためには、例えば先ほどの岐阜電力の話なんか非常に話しやすいと思います。やろうと思えば多分誰でもできるので、そういうことも含めて、また色々協力してやっていきたいと思います。

○委 員

予算がないという話もあったんですけども、江南市さんは地球温暖化対

策実行計画ということで、市の庁舎の関係の二酸化炭素削減をしているということなのですが、愛知県の方も愛知県庁の環境保全のための行動計画ということで、愛知エコスタンダードといった江南市さんのような形で、2050年カーボンニュートラルを目指して、県全体の二酸化炭素削減を目指しているところです。

県の取組も少し紹介させていただくと、環境マネジメントシステム推進会議というようなものがありまして、その体制の中、エコアップリーダーを設置するとか、各部署でどういう取組をするとか、関係する環境法令がきちんと守られているかというのを、部署の中でチェックをするということを、四半期ごとにやっています。

各担当課で取りまとめをしており、その取組が自分のところだけだと、きちんとやれているかどうかという評価ができないので、内部環境監査というようなこともやっています。

私は今尾張県民事務所にいるんですけれども、三の丸庁舎の中には色んな県の機関があるので、他の機関に行って、私も内部環境監査委員なので、例えば建設事務所さんがどんな取組をされていて、きちんと目標に向かってやっているとか、環境法令がきちんと守られているかどうか、そういった環境法令があることをそもそも知っているかどうかなどをチェックし、職員の中でそういう役割をまわしています。

また、外部環境監査というのも、年にそんなに多くはできないのですが、環境局の環境活動推進課で、年に何か所か決めて行っており、今年度、江南市が受けられる省エネ診断はそういった取組かと思ったんですけど、横展開はなかなか難しいので、そういう仕組みを作っていくと思います。

自分の業務が忙しく、おろそかになってしまう部分についてもチェックが入るものですから、必然的に取り組まざるを得ないという動きも出てくるのではないかと思います、取組について紹介させていただきました。

○事務局

ありがとうございます。

○委員

まず、排出量の説明があった時に感じたのは、学校教育系施設の排出量の多さです。15校ございますので、その中でたくさんの排出量を出しているという実態をまず私自身が知ったというのが一つあります。

その中で、学校の中でできることは何かということを考えた時に、私自身は学校の中を一日に何回も回っているものですから、回る度にトイレの電気を消

し続けております。自動では消えませんし、そうかと言って子供達が毎回消えるかというところではない。ただ、子供たちが放課になった時に行くと、いつも消えてるなと思ってくれることが大事だという思いの中でやらせていただいているところもあります。

それに学校の中でできることと言われた時に、子供たちがそういう意識を持てるような活動というのは、先ほどの講師の派遣等も含めながら、会長にも随分、各方面で貢献をしていただいております。色々と環境に関わるような学びを提供していただいております。その中で、さらに各校で推進できたらいいなという思いがあります。

それからこれはある意味、未来への話ではございますが、個人的に思うところでは、暑くて夏のプールができなくなってしまったのが残念でなりません。

私自身の記憶が確かなら、小さい頃はプールに行く途中、通学路を歩いているところで、友達と電柱のところへ行くとじゃんけんをし、サンダルを脱いで負けた子が次の電柱まで裸足で歩いても耐えられるぐらいだったと思うのですが、今はそんなことは絶対できません。

また、体育館も夏場は使うのが難しくなっている等々、実感できる場があります。

我々が思うところは、今子供たちが思っている、感じているこの生活が、子供たちが大人になって自分達の子供や孫に話す時に同じ話ができればいいなということです。

それから、もう一つの観点として、いろんなアイデアが持てるような子供たちを育てていくことが、我々ができることなのかなと感じております。各学校の校長にも、校長会を通してお話ができればなと思いました。未来への教育を大事にしたいと思います。

○会 長

ありがとうございました。まさに僕の言いたいことが全部詰まっています。

本当にもう小学校3年生ぐらいまでに、体験の中で色んな経験をさせていかないと、iPadでは暑さも匂いも何も分からない。だから本当にそういう体験をさせるということが、将来の大人を作っていきます。

環境に関して、環境って大事だよと言っても、多分誰にも伝わらないと思います。命と一緒にです。命って大切だよ大切だよって100万回言っても、多分伝わらないです。でも自分の手の中の例えばペットでも何でも命を失ったときに痛い思いをするという経験が大切で、本当におっしゃる通りなんです。

ただし全部は多分無理だと思うので、一部だけでもそういう経験をして欲しいです。僕らはそれを担ってますから、高い低いはあるって全然構わないですか

ら、皆さんの力で、どこでもいいし、誰でもいいからやっていっていただけると嬉しいなと思います。

他に何かご意見はございませんか。

○委 員

2050 年にカーボンニュートラルの先行地域に手を挙げてやっている自治体は、住民の皆さんの活動の中のどんなところに前向きさがあるのか知りたいと思いました。

最近新聞などで岩倉市が結構色々なことをやっているというのを目にしみると、江南市も結構やっているけれども、あまり紹介はされないなと思っていて、もう少し新聞やメディアを利用しながら、もっと市民の方にお知らせをして盛り上げていっていただけるといいと思います。

先ほどご紹介いただいたカーボンニュートラルの標語の募集のチラシを地域にも配ったところ、「カーボンニュートラルとはどういうことか」といったように、全然反応がなくて、説明の段階で「私には関係ない。」というような言葉を聞いたときには、ちょっと驚いてしまいました。まだストップ温暖化のほう分かりやすいのかなとも思いながら、やはりもっと市民の皆さんに知っていただく機会をつくる必要があると思いますので、エコチャレンジ推進協議会も含めて色々なイベントをやっていけたらいいかなと思いました。

あと、色々な活動というのは、モデル地区みたいにどこかを選定して、しっかりと取り組んでいく、そこで成功したら先ほどの国の話のようにそれを横展開していくといったように、みんなで頑張って取り組んでいくという姿勢が、地域にとっても色々な面でプラスになっていくと思いますので、何かそういったことができたらいいいと思いますし、それにはやはり年代的に若い方も含めてやれたらいいなという思いがあります。

○事務局

先ほど例に挙げた先行地域で実施している内容としては、基本的には太陽光パネルの設置になります。メガソーラーまではいきませんが、太陽光発電を中心とした脱炭素ということで、設置場所があったからなのか、皆それでやってみようという地元の合意形成があって進められたということだと思います。

岩倉市のお話もご紹介いただきましたけれど、確かにプロジェクトチームを職員で作っており、部署を超えて若手職員で取組が進められていて、その結果をどんどん発信されているようです。

江南市に関しては、今は環境課内にとどまってしまってますけれど、やれる

ことをやって、あとはどうやって市民に情報を提供して共有していくかというところは、まだまだ課題があると思います。

あと、先ほどお話が出た環境監査という取組は、なかなかいい取組だと感じました。環境課が監査をする立場になるのかどうか仕組みは分かりませんが、やはりそういう姿勢を見せていくのも大事だと思いました。

○会 長

他にどうしてもこれだけは言っておきたいということがありましたらお願いします。

○委 員

ちょっと分からないことがあったのでお尋ねしたいのですが、本当に色々な新しい取組がある中で、予算がかからないように知恵を絞られたということだったんですけど、その中でJクレジット制度というのがあり、ここに個人及び公共施設と書いてあるので、誰でも取り組めることの一つなのかなと思ったので、もう少し詳しくお聞きしたいです。

○事務局

例えば、LED化したことによって、LED化していなかった場合と比べて、CO₂排出量が削減できますが、国の制度として、その排出量の削減分がお金に換算される仕組みがあります。

ただし、各家庭単位では小さ過ぎるので、各家庭で現金化するという考え方ではなく、各家庭の排出量を市に報告していただいて、集約した上で環境価値として扱い、クレジット化するという仕組みになります。

市では、太陽光発電システムや蓄電池などの設置に補助を出していますけれども、それらを導入していただいたことによって生まれる環境価値を市にご提出いただいて、クレジットに換えて、そのクレジットを取組をしたい事業者を買ってもらうことで、事業者も取組をしているというサイクルを作っていく仕組みが、Jクレジット制度ということになります。

○委 員

例えば、色々補助金を出されたりしている中で、そういったものはもう自動的に適用されるのでしょうか。

○事務局

自動的ではなくて、市に登録をしていただくという形になります。どのくら

いCO₂が削減できたかを数字で把握しなければならず、そこまでできて初めて環境価値に置き換えができるという流れになります。

○委 員

なかなかハードルが高いですね。

○事務局

そうですね。ただ、普通にゼロカーボン設備を使っているだけだとその価値がどんどん捨てられていってしまうので、補助金を受ける条件として報告していただくということにすれば、生まれた価値が有効にクレジット化できますし、その価値を市内の事業者に買っていただくことでCO₂の削減の取組を展開できることにもなります。

○委 員

ありがとうございます。

○会 長

それではこのあたりで終わりたいと思いますけれども、事務局の方で何か補足はございますでしょうか。

○事務局

内容についてはございませんけれども、次の2回目の予定だけこの場でお伝えをさせていただきます。第2回は11月12日の水曜日、午後2時からを予定しておりますのでよろしくお願いいたします。正式には文書の方でご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○会 長

ありがとうございます。次回につきましても、きっとお忙しい中だとは思いますが、ぜひまたご参加いただければと思います。もし何か今回の件でもそうですけれども、分からないことがありましたら、環境課のほうに直接出向いていただいて、お話をしていただいても構いませんので、よろしくお願いいたします。

では、熱心なご審議ありがとうございました。これで第1回環境審議会を終了いたします。

○事務局

現在、ボランティア団体の「エコすく」さんを中心として、ゼロカーボンの標語を募集しております、皆さんに1枚ずつチラシをお渡しいたしますので、お持ち帰りいただきたいと思います。